

國學院大學學術情報リポジトリ

[余滴]金田一・今泉・此島先生作詞の校歌

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小林, 國雄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000912

金田一・今泉・此島先生作詞の校歌

小林 國雄

金田一京助先生と今泉忠義先生が長く本学に在職され、私どもが数々の学恩を受けていることは改めて申すまでもない。また此島正年先生は私どもの大先輩であり、国語学者として多くの業績を挙げておられる。

他方、余技と申しては失礼かも知れないが、三先生が小学校・中学校・高等学校や盲学校などの校歌を作詞されていることを最近になって発見した。

そこで、関係者以外にはあまり知られていないと思われるそれらの校歌を紹介しておきたい。

一 金田一京助先生作詞の校歌

1 茨城県水戸市立水戸第一中学校校歌

一 那珂の水 とこしへに澄み

筑波山 黛色深し

衣手の ひたしの国は

日の縦の うましふるさと

二 ふるさとは われらのほこり

名にしおふ 名教の郷

年若き われらの伴は

明日の代の 祖国になふ

三 踏み分くる 先人の道

摘み分くる 人文の花

すこやかに たのしくきよく

いそしまむ いざ相共に

文語五七調四行から成る、均整のとれた校歌である。作曲者は高木東六氏で、制定は昭和二七年一月である。

2 東京都杉並区立東田小学校校歌

一 多摩の水 遠くめぐりて

富士の嶺を まともに望む

武蔵野武蔵野 杉並のおく

東田の われらが母校

二 ゆるぎなき 富士の姿は

朝夕の 心のおしえ

にぎりなきにぎりなき 多摩の流れは

とことわの 心のかがみ

三 その水の 清きにたぐい

その嶺の 高きを仰ぐ

うらわかきうらわかき 学びの友は

明日の代の み国のはしら

四 明日の代の み国をになう

うらわかき われらが友よ

いざともにいざともに 正しく清く

いそしまん 学びの道に

東田 東田 われらが母校

東田 東田 われらが母校

作曲者は1と同じく高木東六氏で、制定は昭和二九年三月である。金田一京助先生は長く杉並区東田町に住んでおられたから、お頼まれになったのであろう。

3 相模女子大学校歌

一 さねさし 相模をの小野の

学やび舎に むつみ合ひつつ

相まなぶ われらが友よ

いざ共に 手に手を取りて

二 いにしへの やまとをみなは

とこしへの こゝろの鑑

あたらしき 時世ときよの道は

あさゆふの こゝろの掟おきて

三 天高そらし われらの希望

かぜ清し われらの操守

たからかに われらは歌ふ

相模女子 大学の歌

作曲者は1・2と同じく高木東六氏で、楽譜には「しずかに やさしく」と注記されている。なお、此の校歌の歌詞は碑に刻まれ、大学の正門を入ったところに建てられている（昭和三九年に制定された）。

4 静岡県富士宮市立富士宮第二中学校校歌

一 富士の嶺の 高き姿を

朝夕に まどべに仰ぐ

めぐまれし 我が学園は

富士宮 第二中学校

二 玲瓏の 玉の装は

仰ぎみる こころの鑑

ゆるぎなき 不壊の姿は

行く末の 母校の教訓

三 麗わしき この地城山に

手をむつび われらは学ぶ

すこやかに 清く正しく

いざ共に 第二中学校

作曲者は市川都志春氏で、昭和三五年九月に制定された。

5 静岡県焼津市立大村中学校校歌

一 みどり濃き 焼津のさとに

富士の嶺を 朝夕のぞむ
あたらしき 白亜の校舎
見よ これぞ われらが母校

二
神倭かむやまと 健たけのみこの

くさなぎの みつるぎの名と
いさをしを 永遠に伝ふる
名ぐはしの われらが郷土

三
うつくしき 自然の中に

ゆたかなる 歴史のながれ
東海の 浪たひらかに
をしへぐさ 摘みてぞしのぶ

四
ひらけゆく 新しき代を

になはむは 誰にかあらむ
手を取りて われらが伴よ
相ともに いそしまむ いざ
相ともに いざやはげまむ

われら 大村中学生

力のこもった校歌である。作曲者は高木東六氏で、昭和三年二月に制定された。

6 静岡県立沼津盲学校校歌

一 さわやかに 日が昇るとき

小鳥の胸は 熱くなる

希望にはばたく 合奏に

清く明るく ぼくらは歌う

ぼくらの心に 愛ある限り

二 かぐわしく 風吹く日には

けだかい富士は 呼んでいる

理想と勇気の 灯をかゝげ

強く正しく ぼくらは進む

ぼくらの心に 夢ある限り

三 静かに夕陽 沈むとき

波は炎と 燃えさかる

松の浜辺に 手をつなぎ

海に向って ぼくらは叫ぶ
ぼくらは幸せ 友ある限り
金田一京助先生作詞の校歌としては珍しく口語体で、作曲者は熊田為宏氏、昭和四七年三月に制定された。

二 今泉忠義先生作詞の校歌

1 神奈川県相模原市立麻溝小学校校歌

一 大山に 朝日かがやき

明けわたる わが町々の

明日の栄えを 担うわれわれ

はげもうきょうも 希望に燃えて

二 麻溝の おだやかな昼

教室は ひたむきな面

校庭からは 湧きあがる声

伸ばせ心も からだも強く

三 相模川 夕日に染まり

わが家へと いそぐ道々

この一日の 学んだあとを
かえりみようよ あすの日のため

各連とも前半の二行は五七調で、後半の二行は七七調という珍しいタイプの校歌である。作曲者は鐙木創氏、制定年月は不詳である。

三 此島^{このしま}正年先生作詞の校歌

1 青森県立六戸高等学校校歌

一 みちのくの果て 広き野を
世々に人びと 開き来て
今うるわしき わが郷土
この学びやに 我らあり
祖先のこころ 胸にしめ
わが力もて わが道を
いざ開き治めん

二 六戸の原 ひろびろと

夏はみどりの さわやかに
冬八甲田 雪しろく

学びの窓に　かがやけり
師のまじびきを　仰ぎつつ
誠のこころ　ひとすじに
いざ勉め励まん

三　十和田のうみの　水きよく

奥入瀬川を　下り来て
恵みゆたかに　わが郷土
学びの庭を　うるおせり
友のなさけに　むつびつつ
心ゆたかに　すこやかに
いざ生い立ちゆかん

文語体、七五調である。作曲者は中村卓三氏で、昭和五六年四月に制定された。此島先生は長く弘前大学で教鞭をとっておられたご縁で依頼され作詞されたのであろう。